

2025年 (令和7年) 6月28日 (土曜日)

# 7色7編成の日が発売

## 大雄山線の記念乗車券

伊豆箱根鉄道(伍堂 周年の節目。文康社長、本社静岡県三島市)は7月7日、「7並び記念乗車券」を発売する。神奈川県西部を走る大雄山線は、今年で開業100

編成の車体がすべて、異なる色に塗り替えられた。

令和7年7月7日は、7が三つ並ぶめでたい日。この日に記念乗車券を発売する。

台紙には、鉄道ファンの目を引く写真がデザインされている。大雄山線で運行されている7編成すべての車両が、一堂に会した一枚。また、中面には各編成の写真とイラストを掲載。

台紙サイズはA5判。A型硬券7枚セット(自動改札機は使用不可)。同社は以前にも「数字並び日付記念乗車券」を発売した経緯があり、鉄道愛好家を中心に、好評を得た。発売場所は、大雄山駅。金額は2000円。発売数は777枚。有効期間は2026年8月8日まで(1回限り有効)。

天狗、リンドウ  
オレンジ、桜色

大雄山線は1925

年10月、大雄山最乗寺への参詣鉄道として開業した。100周年を記念し、同社はまず2

023年9月から「天狗電車」の運行を始めた。

その後、「リンドウ電車」、「オレンジトレイン」、「春めき電車」が登場。4編成の車体の色が変わった。

天狗電車の前には「イエローシャイニングトレイン」、「ミントスペクタクルトレイン」。オリジナルカラー(青)の5502編成を合わせ、全7色の車両が走っている。

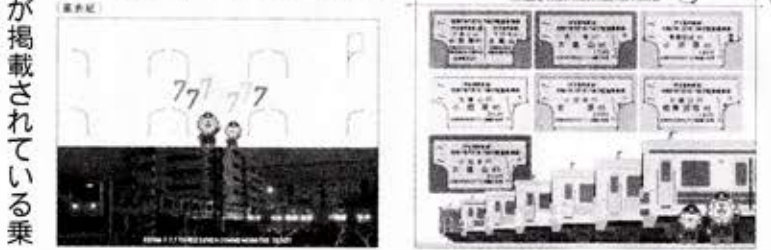
天狗電車以降の4編成のカラーリングは、沿線の地域資源をイメージしている。天狗電車は大雄山最乗寺、オレンジは小田原市の特産品の柑橘類、リンドウは南足柄市の花。



車は大雄山最乗寺、オレンジは小田原市の特産品の柑橘類、リンドウは南足柄市の花。

さらに春めきは、南足柄市で生まれたオリジナルの早咲き桜(品種登録者は古屋富雄さん)。早春の観光資源として人気を集め、市内外から大勢の行楽客を呼び込んでいる。

同社は「色鮮やかな7編成の車両を走らせることで、開業100周年を盛り上げるとともに、沿線地域の魅力を広く発信してまいります」としている。



通り。いずれも大人運賃。  
▽大雄山から小田原まで往復620円(1枚)

▽小田原から岩原まで片道210円区間(1枚)

▽岩原から大雄山まで片道170円区間(1枚)

▽大雄山から相模沼田まで片道190円区間(1枚)

▽相模沼田から小田原まで片道190円区間(1枚)

▽小田原から大雄山まで片道310円区間(1枚)

▽大雄山から小田原まで片道310円区間(1枚)  
問い合わせは、伊豆箱根鉄道運輸課(☎0551-977-1120)へ。平日のみ対応。

7編成の列車の写真が掲載されている乗車券。すべて車体色が異なる